

可能な各市町村様で **100%再エネ化(=木造人工島潮流発電)** を始めましょう。

2050年での世界の温室効果ガス±0を前倒しで達成しましょう・日本の重要な輸出産業にして殖産興業と地方創成、そして大企業も中小企業も潤い、大幅な給料UPを果たしましょうとの、掛け声に圧倒されて、「システムが膨大なのかな?」「すぐに取り組みない内容ではないか?」と思われがちですが、さにあらず、**お取り組み後半年足らずで発電が可能になりますので、ご準備が整い次第、近隣の各市町村様と連携・相談をしながら、早急にお進め下さい。**

木造人工島は、基本的な設計図はほぼできておりますし、どこの地方の木工所さんでも、三か月もあれば製造ができるものです。

大型水車のノウハウは、既存のものをアレンジして使い、またギアボックス付きのリバーシブルの発電機も、基本的にはすでに実用化され、さらに発電機周りの周辺機器やケーブルも、既存の関連のメーカーさんのノウハウで十分です。

従いまして、地元の関連メーカーさんや木工所さんに発注をする方向で、早急にご検討下さるようお願い致します。

風船はまとめて発注する方が安くなるので、どこかの市町村でお取り組みがはじまれば、こちらからゴムタイヤメーカーに話しを出してみます。

高度で難しい技術は2点(\*)ありますが、**当面の各地域でのクローズドした発電システムでは全く問題なく、すぐに(半年程度以内で)発電が可能になりますので、どうかご理解ください。**

(\*) 難しいところ:サイバー攻撃に強く(停電は絶対ダメ)すべの再エネと一部化石燃料の発電システムとがつながり、全体での発電量の把握やシステム障害が起こっている場所のフォロー等を行う「**AI 統括システム**」が難しいので、米国に依頼する方向ですが、当面の各地域でのクローズドした発電システムには、**該AI 統括システムがなくても問題ありません。**

また、輸出での国際競争力を高めるためには、カスタムIC化で(一個の素子ですべての制御を賄う、あるいはなるべく素子の数を減らして)コストダウンをしなければなりません、最初からは無理で、最も効率の良い全体の系が定まらないと難しいので・・・当面は各地域の発電対応として、人工島&潮流発電=100点という、基本ベースが高効率なので、地域の地産地消の設計・製造にて、全く問題ありません。(カスタムIC化は台湾企業に依頼予定)

木造人工島（特許取得済み）をベースとした、潮流発電Sやプールを設定しての水流発電Sは、天候や昼夜に左右されず、また水エネルギーは空気エネルギーの770倍によって、莫大な発電量が見込まれます。

木造人工島は、基本的に□12mの木製のアングルで構成され（□12mのアングルを水平につないで大きな人工島にする。）、積載重量に合わせて、一個で約4tの浮力のある「球2mの風船」の個数を調整するものですが、低コスト&短納期&安全性が高いものです。

安全性に関して、従来の船型であれば、浸水すればそのまま沈没し、人が行方不明になる確率が高いですが、木造人工島では、浸水しても浮力が保たれ、また風船が故意に破壊されたとしても、いったん沈みかけるものの、重量のある積載物によって上下が反転し、積載物が海の底に沈むと、木製人工島の木枠は再び浮上するので、（また木枠は大きな隙間があるので、すり抜けて）人やペットは上に乗って、救助を待つことができます。

また、木製人工島は付加価値がとて高く、各種再エネの設置での水平を出すのが簡単な上に、水車などの機器の水位が一定に保たれ、木枠に固定するだけなので、（従来の土台固定型に比べて）超低コストになります。

<各発電システムの評価点を整理しますと、以下のようになります。>

人工島潮流発電 100点：莫大なエネルギー量で、天候に左右されない。  
プール水流発電 90点：河川水量の増減に対し安定した水位、洪水・地震に強い。  
人工島ツリー型 50点：メガソーラの40倍の設置効率。雪・強風に対応。  
人工島風力発電 40点：土台不要、設置コストが安い（風が弱いと発電不能）  
陸上ツリー型 30点：堅固な土台を必要とし、設置コストが高い。  
洋上風力発電 20点：堅固な土台を洋上で必要とし、設置コストが超高い。  
陸上風力発電 10点：森林伐採の環境破壊を引き起こす。土台コストが高い。  
メガソーラ： 10点：場所をとり、環境破壊を起こす。雪に弱い。

陸上風力発電では、風通しを良くするため、大規模に周辺の森林を伐採する必要があり、山の中に設置するので、（設置&メンテナンス）道路整備なども伴い、環境破壊の影響が大きい。（ツリー型では、森林伐採は不要）

結論として、台風や地震対応の強固な土台のコストが（遠浅の洋上では、さらに）高くなり、風力発電にこだわったとしても、土台が不要で、土地の買収も不要な木造人工島をベースとして進めるべきと考えます。

## 「推奨運用発電システム順位」

1. 海外沿いの都市は、人工島—潮流発電
2. 山間部の都市は、プール—人工島—水流発電
3. 潮の流れがない海岸沿いの都市は、人工島—ツリー型太陽光発電
4. 適当な川のない内陸部の都市は、あき地や道路上のツリー型太陽光発電

### <進め方のご提案>

「第一ステップ」としまして、□12mの木造人工島ユニットを9個作成し、各種の基礎検討を行う。基礎検討の内容としまして、「木材の精密加工技術」、流路の幅を変えての速度計測（ベルヌーイの定理の検証）「30m級の木製の大型水車」、「木製大型軸受け部」&「受加速ギア付帯の発電機」、「海洋ごみ収集システム（ロボットが定期的に引き上げ、台車上のトレイに入れる）」、そして木造人工島同士や防波堤との木製固定方法を検討する。（加速ギアや発電機以外は、広葉樹針葉樹、竹等の各種木材しか使わない。）

「第二ステップ」は、□12mの人工島ユニット10x10個を一つのユニットとし、それを9個並べ、また水車&発電機を設置し、さらに実際に発電し、電力需要のどれだけ賄えるかを検討確認し、「第三ステップ」では、ある地域での全体を賄えるような（=100%全再エネでのスマートシティ）人工島の面積を確保する方向で考えています。

### <美しい海洋と山水の国：木造人工島の無限の可能性>

以上述べてきたように、浮力4tの球2mの風船を複数個使い積載物との浮力調整を行う、木造人工島の超低コスト・短納期・安全性は折り紙付きといっても、過言ではないでしょう。

潮流発電やプールを設定しての水流発電等の再エネの他、各種海産物の養殖場・海水水耕栽培、海洋ごみの自動収集、リゾート的な住宅・オフィス・商業エリアの拡大、自然水族館、網を施したサメ安全海水浴場・・・無限の可能性を秘めた美しい海洋と山水の国が誕生し、また木造人工島を経由しての空中鉄道で世界を結ぶことができます。

また「木造人工島+潮流発電やプールを設定しての水流発電等」の各市町村からの輸出によって、地方が潤い、日本のGDPは大幅に、急激に上昇し、財政に余裕が生じ各種社会問題が解決に向かいます。（地獄の沙汰も金次第）

そして給料が大幅に上昇、若者は恋愛し結婚し、少子化に歯止めがかかりますので、可能な**全国の各市町様での早急にお取り組みをお願い致します。**